

学校だより



桑山っ子



三豊市立桑山小学校
令和7年1月17日

No. 10

文責：宮武 優

1月8日(水) 3学期始業式



【校長式辞】

冬休みは楽しく過ごせましたか。私は、満濃中学校で担任していた子たちの同窓会に参加しました。9年ぶりの再会でした。24歳になった彼らは、みんな立派になっていて、始めはだれか分からないくらいでしたが、話をしていると、中学生のころと変わっていないところも見付き、また、それぞれが今がんばっていることを知って、うれしい時間を過ごしました。そして、会も終わって帰ろうとしていると、ある男の子から、「先生、腕相撲しよう」と挑戦を受けました。振り返りにしてやろうと思ったら、あっという間に負けてしまいました。「先生、手をぬいたんとちがうん？」と言われるくらいの完敗です。でも、負けたことも、うれしかった。先生をしている人にとって、教え子たちが成長した姿を見ることくらいうれしいことはありません。自分を追い越して、どんどん伸びてくれることを願っているのです。昔から、「1月は行く」「2月は逃げる」「3月は去る」と言われていて、3学期は、油断していると、あっという間に終わってしまいます。みなさんは今年の目標を決めましたね。その実現に向けて、今日からの1日1日を大切に生活してほしいと思います。そして、ぐんぐん伸びてほしいと思います。3学期は、今の学年でできることをたくさん身につけ、そして、中学生や、一つ上の学年なる準備をしてください。そういう意味で、3学期を、新しい学年の0学期と言ったりもします。3学期も、みなさんの笑顔と、いろいろなことに挑戦する姿がたくさん見られることを期待しています。

1月16日(木) 5・6年生 うまいもん出前講座

「うまいもん出前講座」は、小中学校・高校の児童生徒を対象に、県産食材の魅力を知ってもらうため、「うまいもん広め隊」の活動として開催されているものです。

今回、桑山小学校では、JA香川県、香川県水産振興協会、香川県交流推進部からそれぞれ講師にお越しいただき、「おいでまい」の特長や魅力の講義や、のりのつくだ煮づくりのデモンストレーションをしていただきました。さらに、できたてののりのつくだ煮を添えて、「コシヒカリ」と「おいでまい」の食べ比べもさせていただきました。

子どもたちは、お米の品種を開発する苦労や、お米を生産している農家の方のがんばりを知り、ふだん何気なく食べているお米への意識が高まりました。

食べ比べでは、「おいでまいは、やわらかくて甘かった。おいしい。こっちが好き。」と好評でした。お代わり希望者もたくさんいました。のりのつくだ煮もおいしかったようで、レシピをもらって、「家で作ってみます」という声も聞かれました。



1月17日(金) 阪神淡路大震災から30年

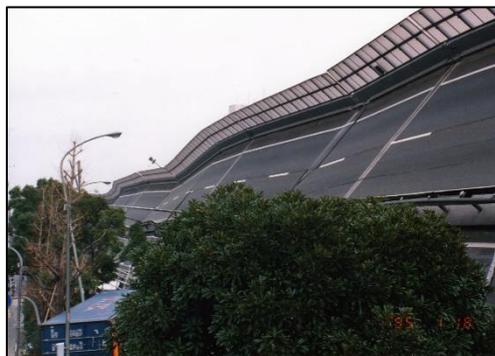
1月17日は、1995年に起きた阪神淡路大震災から30年目の日です。

私は大学時代の4年間、神戸市東灘区にあった大学寮で暮らし、250ccのバイクで大学に通い、また、バイトに行ったり、あちこち出かけたりしていました。ですから、この日には、特別な思いがあります。

30年前のあの日、被害を伝えるテレビに映る、途中の階が押しつぶされたビルには見覚えがありましたし、倒壊した阪神高速も、その下の国道43号線をバイクでよく走っていました。あの地震では、家屋の下敷きになったり、火災に巻き込まれたりして多くの方が亡くなりましたが、その中には自分が通った大学の現役学生も大勢いることを知り、「自分もそうになっていたかもしれない」と思いました。

先日、政府の地震調査委員会は、南海トラフの巨大地震が今後30年以内に起きる確率について、これまでの「70%から80%」を「80%程度」に引き上げ、公表しました。香川県にも大きな被害をもたらすと言われる南海トラフ地震ですが、今の科学では、地震発生を正確に予測することはできません。30年後、もしくは、もっと後かもしれないし、逆に明日起きるかもしれないのです。身を守るには、日頃から備えておくしかありません。

1月17日や、東日本大震災の起きた3月11日は、地震を自分事と考えて気持ちを引き締め直し、備えをしておく大事な日だということを、子どもたちにも伝えていきたいと思えます。



深江本町阪神高速 倒壊現場
(写真提供：神戸市)